

2013（平成 25）年度事業計画

1 中期事業計画への展望と方針

武蔵野美術大学は、1929（昭和 4）年の帝国美術学校創立以来、「真に人間的自由に達するような美術教育」、「教養を有する美術家養成」を建学の精神とし、清新な創造力を持った美術家、デザイナーの養成に努めてきた。国内外に多くの優秀な人材を輩出し、わが国の美術・デザインの発展及びその教育研究の重要な一翼を担ってきた。

本学は 2009 年（平成 21）に創立 80 周年を迎えたが、13 号館、2 号館アトリエ棟の建築を進め、2010（平成 22）年 6 月に新図書館を竣工開設、2011（平成 23）年 3 月には美術資料図書館旧棟の新美術館への改修工事を終了するなど、着実に施設設備の充実を図ってきた。2012（平成 24）年 4 月には本学デザイン教育研究活動の情報発信推進を図るための拠点として、東京ミッドタウン・デザインハブにデザイン・ラウンジを新たに開設した。また、特別任用専任教員の採用や客員教授任用の推進など、教育研究体制の更なる充実にも努めてきた。

一方、18 歳人口は 2017（平成 29）年まで 120 万人前後を推移した後、漸次減少を続け、2025（平成 37）年には 108 万人となり、以降は更に減少傾向が加速化することが明白な状況である。また、大学志願率は文部科学省基本調査において、2010（平成 22）年度 55.7%、2011（平成 23）年度 55.4%、2012（平成 24）年度 55.0%と報告されており、すでに頭打ちの様相を呈している。初等・中等教育における図画工作科・美術科の時間数削減なども相俟って、美術教育についての厳しい社会的環境等、本学を取り巻く状況は、楽観できない。

教育理念の永続的な実現に向け、教育研究の更なる質的向上を図り、美術・デザインの教育研究機関としての先進的な役割を広く社会に情報発信する大学としてあり続けるために、今後 5 年間 18 歳人口の安定的な推移が見込まれる現在において、中期的スパンにおける諸課題の整理・検討の仕組み、財政的背景を持った実施の時期・手順等を具体的に示した基本計画の策定が喫緊の課題である。

当面の主な中期的課題は以下のとおりである。

（1）キャンパス整備計画

イ. キャンパス基本構想の確立

これまでの学内各方面からの意見聴取や議論の積み重ねを踏まえ、理事長・学長連名による「小平 333 道路対応を中心とする基本構想」が 2010（平成 22）年 9 月教授会及び理事會に提示された。この基本構想は、小平 3・3・3 号線対応を、本学の基盤を強化する好機と捉え、将来の組織改編と大学院の充実に対応可能な教育研究環境の整備を目的としている。

上記基本構想を踏まえつつ、詳細な計画についてキャンパス基本構想委員会を中心に更に検討が進められ、「北側校地グラウンド等移設工事及び A 棟（仮称デザイン工房棟）」の基本設計が建築委員会、教授会での審議を経て理事会において了承された。

今後、7・8・10号館整備・改修及び大学院棟のあり方について検討を進めることになる。

ロ. エネルギー問題の対応

既存老朽設備の更新時における省エネタイプへの切り替え、照明のLED化を進めるとともに、太陽光発電設備の導入など実質的対応に向けた検討を進める。

(2) 財政計画

上記(1)に連動し、その着実な実行を裏付ける資金計画を策定する。

北側校地グラウンド等移設工事及びA棟（仮称デザイン工房棟）建築のための資金については、用地・移転補償費及び経常費をもって対応する。

(3) 大学院の充実

2011（平成23）年5月に設置された大学院将来構想委員会においては、造形芸術の領域が深化し、専門化する一方、多様化や横断化、複合化へと向かう状況がある中、本学にふさわしい大学院教育研究や組織のあり方等について検討が重ねられた。

昨年1月に同委員会より中間答申が提出され、本年3月に本答申提出、その後教授会、研究科委員会及び理事会で検討し、大学院の充実に向け、具体化を図る。

(4) デザイン領域における教育研究の将来構想についての検討

学長諮問により一昨年5月に設置されたデザイン領域将来構想委員会では、学部教育を中心とするデザイン領域学科の現状及び課題、本学にふさわしい教育研究の将来像、デザイン教育研究を拡充するための組織などについて検討が重ねられた。

2012（平成24）年1月28日に同委員会より中間答申が提出、本年3月に本答申が提出された後、教授会及び理事会で検討し、デザイン領域学科の充実に向けて具体化を図る。

(5) 「武蔵野美術大学グローバル人材育成プログラム」の推進

「武蔵野美術大学グローバル人材育成プログラム」は、芸術系大学としては唯一、文部科学省による平成24年度グローバル人材育成推進事業（特色型）に採択された。同プログラムには平成24年度より5年間の経費助成が予定されている。

本プログラムは、美術・デザインにおける高度な専門技術と知識を活用できる様々な能力を身につけ、海外においてもそれらをいかに発揮するために必要かつ十分な外国語力を身につけた人材を育成することを目標としている。具体的には、経費助成最終年度（2016・平成28年度）卒業生において、本学が設定した外国語力スタンダード（TOEFL iBT 80点以上）を満たす者55人以上、単位取得を伴う海外留学経験者数75人以上とすること、また具体的能力として文部科学省がグローバル人材としての三要素として示している「語学力・コミュニケーション能力」、「主体性・積極性など」及び「異文化理解と日本人としてのアイデンティティ」を計15項目に分類し、8項目以上を達成する学生を平成28年度には20%以上とすること等の具体的数値目標を達成することである。これらの目標の達成に向け、教育課程の国際通用性向上・本学の特色に応じた取組・グローバル教育力向上の取組・留学を促進するための環境整備などの着実な推進を図る。

(6) 通信教育課程の改革

四年制通信教育課程として開設後10年を経た現在、在学生数は減少傾向が続いており、

そのあり方について検討を進める。

(7) 大学基準協会による認証評価に向けた計画

2012（平成24）年度よりスタートした第5期自己点検評価における認証評価計画に基づき、2015（平成27）年度には本学として2回目の認証評価を受ける。

(8) 武蔵野美術学園のあり方についての検討

武蔵野美術学園については、市民のための美術教育という社会的使命も踏まえ、発展の可能性を見極める。

2 2013（平成25）年度事業計画における重要課題

上記の中期計画の他、以下の重点課題実施に向け取り組む。

(1) 小平3・3・3号線敷設に対応する北側校地グラウンド等移設工事及びA棟（仮称デザイン工房棟）新築工事の実施

北側校地グラウンド等移設工事、A棟（仮称デザイン工房棟）新築工事を進める。

(2) 教育研究環境整備に向けた各種工事等の実施

12号館地下収蔵庫の展示室転用改修工事、既存校舎（5C号館、ホールC）の外壁補修・屋上防水・塗装補修などの修繕工事、12号館エレベーター耐震改修工事等を実施する。

また、講義室（第1、2講義室）のAV機材、LL教室の機器を更新する。

(3) 学生支援の充実

東日本大震災による甚大な影響に鑑み、被災された2013（平成25）年度入学生や現在も家計の回復が見込めず、修学を継続することが困難な在对学生に対し、2012（平成24）年度に引き続き特別措置として学費等の減免を実施する。また、昨年度新たに導入した自宅外通学者への家賃補助制度についても継続実施し、経済的支援の促進を図る。

(4) 外部・競争的研究資金等獲得の促進

科学研究費補助金の拡充、公的機関、助成財団等競争的研究資金、各種助成金等の獲得、産官学委託研究の促進を図る。とりわけ科学研究費補助金については、2013（平成25）年度より人文学分野における「デザイン学」の分科新設や分科・芸術学における細目追加などが実施される状況の中、支援体制を強化し、申請・採択件数の増加を図る。

(5) 武蔵野美術大学グローバル人材育成プログラムの推進

2013（平成25）年度の卒業生において、外国語力スタンダード（TOEFL iBT 80点以上）を満たす者30人以上、海外留学経験者数10人以上、設定したグローバル人材としての能力を獲得したと認められる者80名以上等、各種数値目標の達成に向け、同プログラムを推進する。

(6) 新カリキュラムの実施

学科別科目における初年次・専門教育の充実や学科横断的な共同・交換授業科目の開設促進、造形総合科目・文化総合科目の見直しなど、2013（平成 25）年度より発足する新カリキュラムについて着実な実施・運用を図る。

(7) 通信教育課程スクーリング等授業システムの改善

2013（平成 25）年度より吉祥寺校での夏期スクーリングを実施、科目試験東京会場を本学鷹の台校からお茶の水女子大学（文京区大塚）に変更するが、2014（平成 26）年度を目途に、更なる履修機会の多様化に向け、吉祥寺校・新宿サテライトでの夏期スクーリングの拡充、週末型夏期スクーリングの導入等授業システムの改善を図るべく、検討を進める。

(8) 美術教育の振興

広報活動の一環として「旅するムサビ」等の活動による初等中等教育現場とのつながりを強化するとともに、美術系大学連絡協議会における情報交換を継続し、美術教育の振興を図る。また、これからの日本のデザインやデザイン教育のあり方についてメッセージを発信する場として昨年度開設したデザイン・ラウンジ公開講座を継続開催する。

(9) 大学間連携、地域連携の拡充・推進

早稲田大学や多摩アカデミック・コンソーシアム（TAC）等との大学間連携及び新潟市・岩室、茨城県・笠間市、立川市、府中市等との地域連携について、連携機関の拡充・推進を図る。

(10) 広報活動の強化

高校内ガイダンスや模擬授業、予備校・研究所における大学説明会等へのより積極的な参加、増加している資料請求者への学年に応じた適切なコンテンツの発信による出願までのフォロー・アップの活動、グローバル人材育成推進事業の広報活動に合わせた「日本を代表する美術・デザインの総合大学」としてのブランドイメージの確立などを進める。また、「進学相談会東京会場」を「真夏のオープンキャンパス-musabiNAVI-」に名称変更、本学への進路をナビゲートするイベントとして定着化、来場者の増加を図るとともに、外国人留学生の志願増を目途に外国での進学フェア・大学説明会に参加するなど、進学イベントの充実化を図る。

以 上